

---

---

## ホットニュース(平成16年度／第78号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／酷暑街づくり

今年の夏は異常に暑かった。歳経るにつれ暑さが応えるようになってきた気もするが、兎に角東京のヒートアイランドには耐えられない。

猛暑の盛、琵琶湖の水に誘われた訳ではないが、湖畔の近江高島に立ち寄ってみた。明智光秀の設計による城下町と言われており、町割り水路のある街である。島原や備中高梁もそうであるが、道の真ん中に水路が走っており、街に趣があり涼しさを感じられた。琵琶湖の風も手伝って、街を歩いても暑さがあまり気にならなかった。

例えば季節対応型の街づくりとして、雪国の高田の雁木や黒石のこみせなどが有名である。また、除雪に対応できるように街路の巾員も広くとられる。克雪街づくりである。

これを考えると、猛暑で2ヶ月以上もヒートアイランドとなる東京では、酷暑街づくりをもっと真剣に考えるべきではないだろうか。暑さ対策だけではなく、冷房と排熱の悪循環による、エネルギー消費と環境悪化の地球環境問題の一つでもある。

今のところ妙案があるわけではないが、高さ5～6m位の街路樹があると、周辺のビルへの遮熱効果が結構あるそうである。建物対応であるが、屋上緑化も効果的である。やはり、平凡ではあるが、酷暑街づくりという視点で、水と緑をふんだんに活かした街づくりに取り組むのが基本ではないかと思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

---

---

### ●超低密度・小必要な公共交通ニーズへの対応

---

---

先日、愛知県豊根村を訪れた。愛知県の東北部、長野県と静岡県と県境を接し、9割が山林で県内唯一のスキー場を有する人口 1,430人、高齢者比率41%の山村である。ここで8月から住民の自家用車による有償運送「がんばらマイカータクシー」が開始された。本年4月に、いわゆる白タク行為が過疎地有償運送として合法化された後の初のケースという。

当村は村営バス以外の公共交通機関はなく、隣町のタクシーを利用すると片道7千円もかかる。狭く勾配のきつい道が多いため村営バスが走行できる区域に限られ、山深いところにいる高齢者等への交通手段確保が急務となっていた。料金は一律1,000円、目的地での待機時間は30分ごとに500円づつ加算される。運転者に直接支払われ、役場等を一切通さない。

当初は構造改革特区として認定されていたが、規制緩和によりその認定が取り消され、逆に運行管理等の規制がかかってしまい、実行しにくい点があったという。もともと、このような地域では住民間の送迎は存在しており、小規模で暮らしに直結し、かつ行政の財政に左右されないという点で、超低密度・小必要なニーズに対応できる唯一の方法ではないだろうか。

(第一計画部 渡辺 明子)

---

---

### ●視覚に障がいを持った方が地図を見る場合

---

---

視覚に障がいを持った方が紙などに書かれた情報を得るには、文字を音に変換して聞いたり、点字に直して触知することになりますが、音に変換するには、多くの時間と労力が必要となりますし、点字の場合はその習得のための努力と、指先の繊細な感覚も必要になります。

障がいを負ってもその困難を軽減するために、今、様々な機器が開発されていますが、その中の一つに「スピーチオ」という、紙の情報を音に変換できる機器があります。現在の当社の業務では様々な障がいを持った方々にお会いする機会が多いので、情報を皆さんに同じように伝達する必要があります。これまで視覚障がいを持った方々には対応が不十分な点がありましたが、この機器があれば一瞬で対応した資料の作成が可能になります。

また、観光マップやバリアフリーマップなど、地図を作成する業務にも携わっていますが、図を文章化することで視覚障がいの方も使うことができるマップをつくることができそうです。ただし、図は人によって様々な見方ができるため、音に変換するには一定の法則を決める必要があります。

新しい機器は困難を改善してくれますが、やはり全てを解決してはくれないわけではありません。複数の、あるいは人的なサポートがあつてなお、不足をどう補うのか考えていく必要があります。

(第二計画部 三浦 春菜)

アルメックホットニュース(平成16年9月15日発行)

////////////////////////////////////